

平成 25 年度 名古屋市「大学等への消費者啓発委託事業」成果報告書

地域における小規模流通と消費者 ～朝市を中心として～

名古屋経済大学経済学部
経済学部特別研究室地域社会研究チーム

平成 26 年 2 月

目次

はじめに	3
第1部 教員の立場から見た事業	4
I. 事業の概要	4
1. 事業の意義と目的	4
2. 調査実施主体と調査実施過程	4
II. 地域における小規模流通の意義と消費者	6
1. 朝市とは何か?	7
2. 朝市が消費者に果たす役割	8
III. 事業実施結果	8
1. 調査結果	8
1) JA と協力して開催する朝市:羽黒・愛知北	9
2) コミュニティが開催主体の朝市:楽田ふれあい楽市	12
3) 二事例の小括	14
2. 参加学生の意見	14
IV. 総括～事業実施と学生への消費者啓発の意義～	22
【参考文献】	22
第2部 学生の立場から見た事業	23
I. 調査概要	23
II. 調査内容	23
1. 羽黒朝市	23
2. 犬山愛知北朝市	25
III. まとめ	27
第3部 参考資料	28
参考資料1 消費生活フェア作成資料	28
研究室作成資料	28
学生カフェ作成資料	33
参考資料2 朝市関連資料	37
岸野ゼミ作成資料:地域住民向けの朝市チラシ	37
参考資料3 朝市調査時のアンケート	39
JA 羽黒、愛知北調査時のアンケート用紙	39
楽田ふれあい楽市調査時のアンケート用紙(岸野ゼミ)	40
楽田ふれあい楽市調査時のアンケート用紙(研究室)	41

はじめに

本報告書は、2013 年度の名古屋市の「大学等への消費者啓発委託事業」の成果をまとめたものである。本報告書は、全体が3つのパートから構成される。第1部は教員の立場から見た事業である。これは、事業推進に関わった教員が整理したものである。第2部が参加学生の立場から見た事業である。これは、事業推進に関わった学生の代表が整理したものである。第3部は参考資料であり、本事業に関して作成した資料を収録したものである。

本報告書の執筆にあたっては、第1部を教員である田村が担当し、第2部は事業に参加した学生代表である武田が担当した。なお、本報告書の内容は事業委託者や執筆者が所属する組織の意見や見解ではない。また、本報告書における誤りについては全て執筆者に帰するものである。

第1部 教員の立場から見た事業

I. 事業の概要

1. 事業の意義と目的

大量生産・大量流通・大量消費の経済システムは、消費者の生活を豊かなものにする一方で、近年ではその弊害ともいえる現象もみられるようになった。たとえば、こうした経済システムの恩恵を受けられない人間の登場である。特に、高齢化が進んだ地域において、従来の大規模流通システムの恩恵を受けられない高齢者等は「買い物弱者」と呼ばれる存在になっている。今後増加することが予想され、この対策が地域の重要課題となっている。

こうした問題を解決するため、地域では定期的な朝市を開催し、地域の住民間の交流の活性化を図るほか、買い物弱者に買い物の機会を提供している場合もある。このほか、地域における農産物直売所は、新鮮な地元産の農産物を安価に購入できることから、さまざまな層の消費者に利用されている。このように各地でみられる小規模な流通は地域の消費者の生活においても重要な役割を果たしているといえる。

名古屋経済大学では経済学部特別研究室地域社会研究チーム(以下、特別研究室とする)が2009年より農業を核とした地域活性化について取組みを進めてきた。その一つとしてこれまでに農業者や関連事業者への調査を進めてきた。しかし、農業を核とした地域活性化への取組みを進める場合には、その地域に居住する消費者の状況を把握することが必要になってくる。特に、2012年度には2009年以降の取組みを学外で発表することを目的として、名古屋市が開催する消費生活フェアへ参加した。フェアでは大学における取組みなどを紹介したが、そのなかで地域の消費者に対する調査の必要性を痛感した。

そこで、本事業では地域で開催される朝市に着目し、利用者と出店者の交流などが地域の消費者にどのような影響を与えているのかを把握することを目的とする。今回は、朝市の利用者へのアンケート調査を通して明らかにする。また、利用者が伸び悩み、朝市の活性化と存続が課題にもなっているため、この点についても見ていく。

2012年12月に施行された「消費者教育推進法」では、「消費者市民社会」の概念として、①個々の消費者の特性や消費生活の多様性の相互尊重、②消費者の生活行動が社会情勢や環境に影響を及ぼしうることにに対する自覚、③公正かつ持続可能な社会の形成への積極的な参画が掲げられている。本事業は、これらのうち③の点から消費者の啓発を意図したものである。

2. 調査実施主体と調査実施過程

本事業の遂行において核となるのは、「朝市」である。対象となる朝市は大学周辺の3つの朝市である。まず、1つ目は楽田で毎月第1・第3土曜日に開催される「ふれあい楽市」である。この朝市

は楽田ふれあい楽市実行委員会が主催し、楽田地区コミュニティ推進協議会の共催となっている。2つ目と3つ目は、毎週土曜日に開催されているJA 羽黒とJA 愛知北の朝市である。こちらは、前者と異なりJA が協力している。この事業を進めるにあたっては、開催主体の違いや利用者層の違いを把握するうえで、開催者が異なる3つの朝市を選択した。もちろん、先述のように消費者教育推進法のところで指摘した「③公正かつ持続可能な社会の形成への積極的な参画」という面からも、学生自身が消費者として朝市にどのように関わるか、持続可能な社会の積極的な参画ということから、大学周辺で開催されている朝市を事業の推進対象として選択した(図表1)。

この朝市の調査を行うにあたっては、特別研究室メンバー、ならびに経済学部岸野ゼミの2年生・3年生、他学部の学生(経営学部3名)が中心になった。また、調査対象の朝市に出店し、昨年度の消費生活フェアにおいて特別研究室とともに出展した学生カフェメレンゲにも加わってもらった。それぞれの役割については、図表2に示す通りである。特別研究室メンバーがJA 主催の朝市と調査の総括を行うのに対し、岸野ゼミでは楽田の朝市を中心に調査を行った。

図表1 調査先の概要

	JA 羽黒	JA 愛知北	ふれあい楽市
設立年	1997年頃	2007年	2010年
開催日時	毎週土曜日	毎週土曜日	毎月第1・第3土曜日
主な取扱品目	農産物、農産加工品	農産物、農産加工品	農産物、農産加工品、肥料など

図表2 事業実施主体と役割

実施主体名	人数	役割
特別研究室+他学部学生	7人	朝市調査(総括)と朝市地域活性化策の検討、消費生活フェアへの参加
岸野ゼミ(2年・3年)	10人	朝市調査(楽田)、朝市活性化策の検討、消費生活フェアへの参加(3年のみ)
学生カフェメレンゲ	2人	消費生活フェアへの参加

図表3に示すようなスケジュールに基づき調査を進めた。消費生活フェアへの出展内容は、昨年度の出展の際の反省点も踏まえ、5月頃に決定した。これ以降は、調査対象をどうするのか、利用者に対するアンケート項目をどうするのかといったことを中心に検討した。

先述のように、アンケート調査は研究室と岸野ゼミでそれぞれ行った。これらの作業をもとに、8月には関係者の間で検討会を実施し、朝市調査の打合せを行い、事前調査や本調査の日程を確定した。事前調査の後、本調査を2回行い、その成果をもとに11月2日の消費生活フェア(同フェアは11月2日と3日の両日開催)に出展した。消費生活フェアでの出展をもとに反省会を行った

が、そのなかでそれまでの調査で聞くことのできなかつた項目、詳細に聞く必要のある項目などが出てきたため、追加調査を12月21日に実施した。以上が本事業と関連した調査実施過程である。

図表3 調査実施過程

日時	内容
2013年5月	調査内容の確定
2013年8月20日	消費生活フェア出展内容検討会、朝市調査打合せ(アンケート作成)
2013年8月31日	羽黒朝市事前調査
2013年9月7日	羽黒朝市調査
2013年9月14日	JA愛知北事前調査(特別研究室)
2013年9月21日	JA愛知北調査(特別研究室)、ふれあい楽市調査(岸野ゼミ)
2013年10月18日	消費生活フェア出展打合せ(カフェ出展関連)
2013年11月2日	消費生活フェアでの成果報告(特別研究室、岸野ゼミ、カフェ)
2013年12月21日	JA愛知北調査[追加調査](特別研究室)
2014年1月18日	ふれあい楽市調査[追加調査](特別研究室)

II. 地域における小規模流通の意義と消費者

様々な小売業態の登場により、消費者の購買行動は大きく変化している。30年～40年ほど前までの買物といえば、近所の商店や近隣の商店街に行くことが多く、百貨店などの大規模店舗での買物はさほど多くなかった。しかし、近年では近所の商店の役割をコンビニエンスストア(以下、コンビニと略す)が果たすとともに、郊外型店舗が増加し、商店街は衰退傾向にある。ショッピングモールのような郊外型店舗はモータリゼーションの拡大、店舗規模や駐車場などの設備を基盤として、既存の商店街を圧倒してきた。

このような状況のなかで、これらの恩恵を受けられない消費者もいる。それが、高齢者の消費者や自動車の運転ができない消費者である。こうした消費者は、買い物弱者となる可能性が高いといえる。そして、ひとたびなると、生活面で不便を強いられることが多く、特に食生活についてはパターン化してしまいやすいことから、健康を害する消費者もいる。

近年では、こうした問題を解決すべく、様々な取組みが実践されている。これは、行政が単独で行うものから、小売業者と地域が協力して行うものまで様々なものがある。そして、こうした買物弱者の買物の場として重要な役割を果たすと考えられるのが、地域ごとに開催される「朝市」である。

また、朝市のような地域内の小規模流通は以下のような役割を持っている。第1に、地域における交流の場としての役割である。第2に、地域における資源発掘の場としての役割である。この2つについて簡単にみておくことにしよう。

まず、地域における交流の場としての役割である。朝市を開催するためには、生産者、主催者、消費者の三者が必要である。むろん、それぞれが異なる特性を持ち、それがミックスされることで、その朝市の独自性が出てくる。その過程では、各主体間の交流が行われる。大規模流通では生産者と消費者の距離が長いのが一般的であり、両者の間に立つ商業者の役割が重要となる。しかし、朝市のような小規模流通では生産者と消費者はより密に交流できる。このことから、消費者が直接的に生産者から情報を得、商品の購入を行うことが可能なので、信頼関係が形成されやすいといえる。

このほかにも、地域住民を中心としているため、それぞれが生産者、開催者、消費者という立場だけでなく、地域住民という枠から交流することにもなる。このことから、地域が抱える問題や情報の共有などを容易に行うことのできる場としての機能も持っている。

次に、地域における資源発掘の場としての役割についてみておこう。朝市においては、全国チェーンの小売店とは異なり、地域色の強い商品が並び販売されることになる。その中には、地域においては当然のごとく消費されるものであるものの、他地域の者からすると非常に珍しいと感ぜられる商品も並ぶことがある。これらはその地域の特徴を示したものであり、地域資源といわれるものになりうるものもある。そういった意味では、朝市は地域資源発掘の場の役割をもつといえる。

1. 朝市とは何か？

朝市が何であるのかについては、先行研究のなかでも定義されている。図表 4 に示すように、市に関しては開催周期によって毎日市、定期市、大市に分類される。今回、調査対象とした朝市はこのうちの定期市にある週市・曜日市に分類される。なお、大辞林によると「朝開く、野菜・魚介類などの市」とされている。つまり、時間帯としては午前中の時間帯に開催される市で、主として生鮮食品を販売する市であることが分かる。今回の調査対象とした朝市も午前中に開催されている。

図表 4 定期市の定義

市の名称	説明
毎日市	毎日開かれている市
定期市	比較的短い周期(5日～10日程度)で開かれる市
三斎市	月に3回、10日おきに開催される市 ex.4のつく日
六斎市	月に6回、5日程度おきに開催される市 ex.2、7のつく日
九斎市	月に9回、3、4日おきに開催される市 ex.2、5、9のつく日
十二斎市	月に12回、2.5日程度おきに開催される市 ex.2、5、7、10のつく日
週市・曜日市	7日週を周期とする定期市 ex.土曜日、日曜日
大市	長い周期(数ヶ月や1年など)で開かれる市 ex.朝顔市、ほおづき市

出所: 森本・鈴木(2010)、1ページ。

2. 朝市が消費者に果たす役割

ここからは、朝市が消費者に果たす役割についてみていくことにする。朝市の主要な商品は生鮮食品である。これら販売において重要となるのが、食品に対する安全性である。特に、「安心」の確保の面では非常に重要な役割を果たしているといえる。

詳細については、Ⅲの調査結果でみることにするが、朝市を利用する消費者の目的としては、大きく2つがある。第1に、自宅の周辺地域で開催されアクセスが比較的容易であるということ、第2に、新鮮な食品を生産者から直接購入できるということである。

まず、第1の点についてみておこう。朝市の利用者は、比較的高齢者が多く、しかも朝市について知っている者が多い。その理由としては、こうした利用者が食料品の購入で、日常的には不便な状態に置かれている(買い物弱者に近い状態に置かれている。)ということが考えられる。つまり、郊外や市内の比較的大きな小売店までの交通手段がない、もしくは徒歩圏内でしか買い物できないという高齢者にとっては、こうした朝市の開催は、買い物場所の確保という面で貢献している。

第2に、生産者から新鮮な食品を購入できるということである。昨今のように食品安全性が問題となっている状況下では、こうした場の存在は消費者にとって非常に心強いものがある。近年発生している偽装表示問題の場合、消費者に正しい情報が提供されていないことが問題になり、それによる不安が消費者の間で蔓延し、最終的には食品に対する不信にもつながっている。

しかしながら、この朝市の場合は生産者から直接購入することができる。これは2つの面で消費者に利益をもたらすといえる。まず、1つ目は食品に対する表示以外の情報が入手できるということである。これは、どのような状況で栽培されたものであるか、これ以外にどんなお勧め商品があるのかといった追加的な情報を入手できる。次に、これとも関連するが、もう1つの面では、生産者との交流を行いやすいということである。これは大規模な流通システムの場合には困難なことである。つまり、商品に対する情報を入手する過程で、その商品の生産者との交流も行うことが可能となり、相互に信頼関係が形成されるということを意味する。さらにいえば、「〇〇さんのところのならば、大丈夫」というような関係づくりが可能であるということである。

さらに、これが高齢生産者と若年層の消費者という関係であれば、高齢生産者が持つ商品に関する情報のみならず、それに付随する地域の食文化等に関する情報の提供なども行われることになる。そうした点から考えると、世代間の交流、特に食文化の継承という役割も果たし、食に関する消費者教育の場としても機能しているといえる。以上のような点が、消費者の生活に対して朝市が果たす役割であると考えられる。

Ⅲ. 事業実施結果

1. 調査結果

ここからは、本事業を通して学生が実施した調査結果をもとにみていくことにしたい。ここでは、JAが開催主体の羽黒と愛知北の朝市、コミュニティが開催する朝市の2つに分けてみていく。

1)JA と協力して開催する朝市:羽黒・愛知北

ここでは、2013年9月7日と21日に羽黒と愛知北において実施したアンケート調査結果をみていくことにする。調査は利用者に直接質問用紙を記入してもらおうという形式で行った。回答数は羽黒が35、愛知北が61であった。

図表5をもとにみていくことにしたい。両者とも市の目的として掲げられているのが「地産地消」である。来場者の男女比は2対8で、来場者は女性が中心である。出店者は、羽黒朝市が約15件、愛知北が約40件である。愛知北の朝市の方が羽黒の朝市に比べて、2.5倍ほど規模が大きくなっている。

さらに、利用者の年代についてみると、羽黒朝市は50～70代、愛知北の朝市は40～70代となっている。これだけみると幅広い層が利用しているようにも見えるが、実際には高齢者が中心となっている。会場までの交通手段としては、徒歩、自転車などの交通手段に加えて、電車といった公共交通機関の利用もある。

両者を比較した場合に特徴的なのが、朝市会場での平均滞在時間である。羽黒朝市が16分であるのに対して、愛知北の朝市は28分である。この要因が、両者の開催時間である。羽黒の場合には開場と同時に商品が売り切れになってしまうという。このことから、必然的に開催時間は短くなってしまう。これが両者の滞在時間に影響を与えているのである。

図表5 調査結果要約

項目	羽黒朝市	愛知北犬山朝市
所在地	愛知県犬山市大字羽黒字前川原 47-1	愛知県犬山市塔野地西 4-1
目的	地産地消・新鮮な野菜の販売など	地産地消・農業振興など
出店状況	約15件	約40件
来場者男女比	2(男)対8(女)	2(男)対8(女)
来場者の年代	50～70代	40～70代
主要交通手段	徒歩、自転車、電車	車、自転車
平均所要時間	約10分	12分
平均滞在時間	16分	28分



次に、調査を行った項目のうち、朝市の来場回数と来場目的、購入商品、利用額についてみて

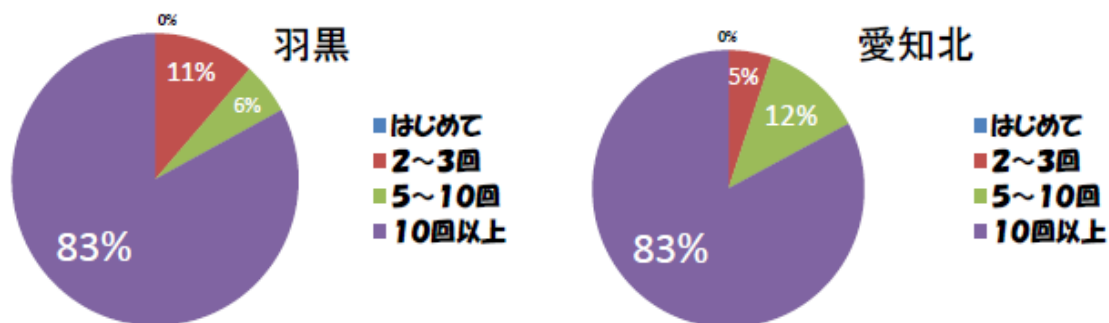
おくことにしたい。

①来場回数

図表 6 に朝市の来場回数を示す。羽黒、愛知北ともに来場者の 83% が 10 回以上と回答しており、来場者の多くがリピーターであることがわかる。また、調査実施時点で両方の朝市とも初めて来場するという者はいなかった。

次に、2 回～10 回でみると、羽黒朝市の場合は 2～3 回が 11%、5～10 回が 6%となっていた。愛知北の場合は 2～3 回が 5%、5～10 回が 12%となっていた。このように細部をみると若干の違いはみられるが、両方の朝市ともに 10 回未満の来場者も約 20%程度はあるので、今後の働きかけ方次第ではリピーターとなりうる利用者也存在することがわかる。

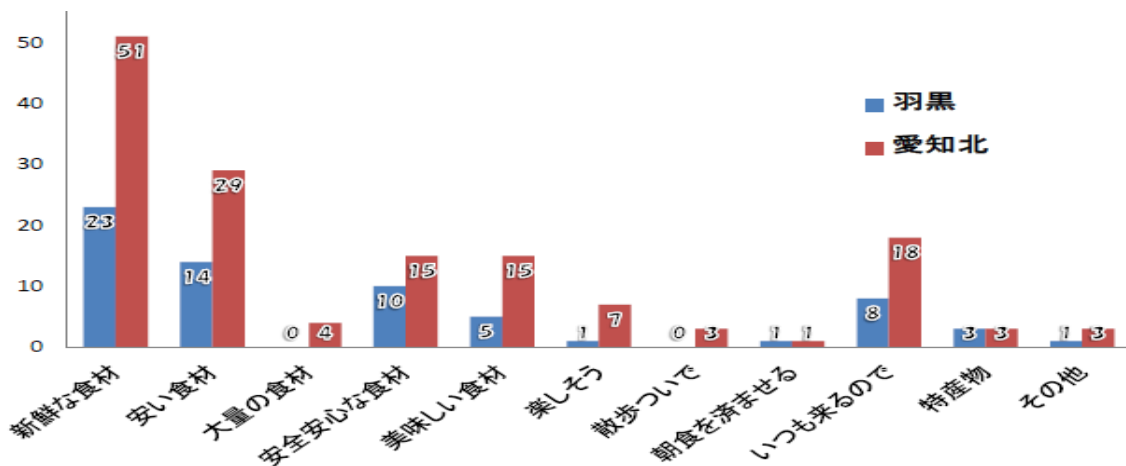
図表 6 来場回数



②来場目的

図表 7 に来場目的を示す。両方の朝市において最も高いのが、「新鮮な食材」の回答件数でそれぞれ 23 件と 51 件となっている。次いで、「安い食材」が 14 件と 29 件となっている。つまり、来場者の多くが新鮮で安い食材を目的に朝市に来場していることがみてとれる。

図表 7 来場目的(複数回答)

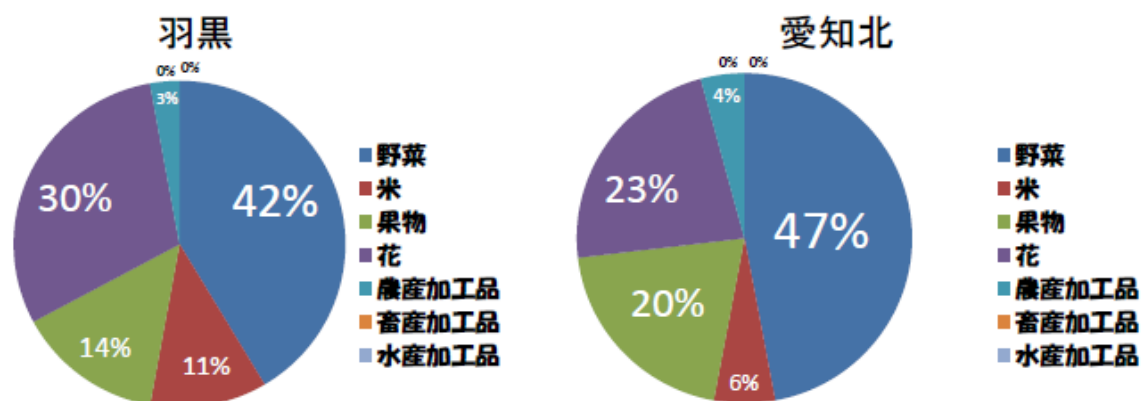


次に、朝市別にみていくと、羽黒朝市の場合は、「安全安心な食材」が 10 件、「いつも来るので」が 8 件、「美味しい食材」が 5 件という結果になっている。愛知北の場合は、「いつも来るので」が 18 件、「安全安心な食材」と「美味しい食材」が 15 件ずつになっている。ここから、来場目的としては、新鮮・安い・安全安心・美味しいという、朝市で販売される食品の特性を目的したものに加えて、「いつも来るので」という回答にみられるように、利用者の生活の一部となっているとみられるようなものもある。したがって、販売される商品の特性に加えて、朝市で買い物するという習慣が利用者の間には形成されていることがわかる。

③購入商品

図表 8 に朝市での主な購入商品を示す。いずれの朝市でも、主な購入商品が野菜、米、果物、花というように農産物が主要な購入商品になっている。そのうちの生鮮農産物の割合は、羽黒で 97%、愛知北では 96%である。また、農産加工品を購入するという回答もわずかだがある。このように、利用者の多くが生鮮農産物を購入している。

図表 8 主な購入商品(複数回答)



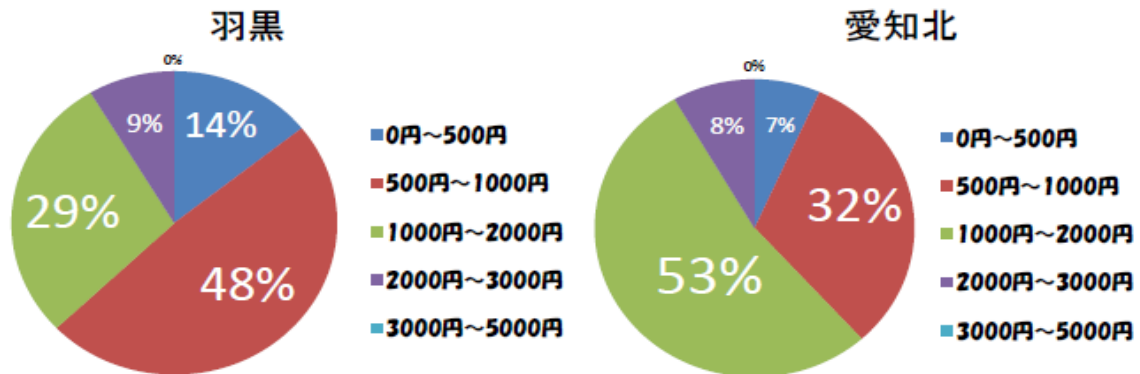
④利用額

図表 9 に利用額を示す。利用額については羽黒と愛知北で若干の違いがみられる。まず、羽黒では、500 円までの利用者が 14%、1,000 円～2,000 円までという利用者が 29%となっている。そして、最も多かったのが 500 円～1,000 円が 48%であった。つまり、半数以上の利用者の利用額が 500 円～1,000 円であることがわかる。

一方、愛知北の朝市では、500 円までが 7%、500 円～1,000 円が 32%となっている。そして、最も多いのが 1,000 円～2,000 円であり、53%という結果になっている。つまり、ここでの利用者は 1,000 円～2,000 円程度の間で利用していることがわかる。

以上のことから、朝市における利用額は、500～2,000 円となっており、この範囲内で商品の購入を行っていることがわかる。

図表 9 利用額



2) コミュニティが開催主体の朝市: 楽田ふれあい楽市

ここからは、楽田ふれあい朝市の調査結果についてみておきたい。ここでの調査は、2013年9月21日と2013年12月21日に実施した。両日ともアンケート調査を実施し、アンケートは来場者に用紙を配布し、回答してもらうという形式で実施した。回答者数はそれぞれ38と58であった。

まず、図表10をもとに概要についてみておこう。来場者男女比についてみると、男性が2割に対して女性が8割となっている。先ほどの朝市同様に利用者に占める女性の割合が高くなっている。一方、主要交通手段としては、車、徒歩、自転車の順になっており、自動車を利用する割合が高くなっている。

図表 10 調査結果要約

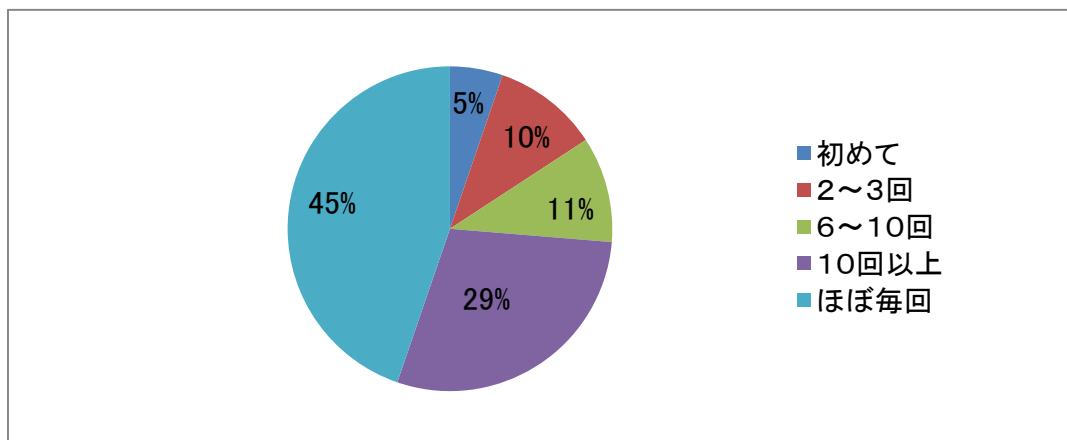
項目	楽田ふれあい楽市
所在地	愛知県犬山市字外屋敷 59-1
来場者男女比	2(男)対8(女)
主要交通手段	車、徒歩、自転車

① 来場回数

図表11をもとに来場についてみておこう。まず、大きな特徴としては10回以上という来場者の割合が29%となっているとともに、ほぼ毎回という来場者が45%を占めるということである。この点は先ほどの2か所の朝市と同様の傾向である。また、別の特徴として、先述の朝市で0%であった「初めて」来場するという利用者の存在である。本朝市では、5%ではあるが回答がある¹。

¹ 12月21日の追加調査以前に、朝市に関するチラシを周辺地域の住民に配布した。配布後に追加調査を行ったが、このときには「初めて」という来場者の割合が24%まで増加している。追加調査時のアンケートの後半部分ではチラシを見たかどうかを尋ねる質問を用意している。その結果をみると、58%の来場者が見たと回答している。今回の数字にはチラシ配布が影響を与えていると考えられる。

図表 11 利用者の来場回数

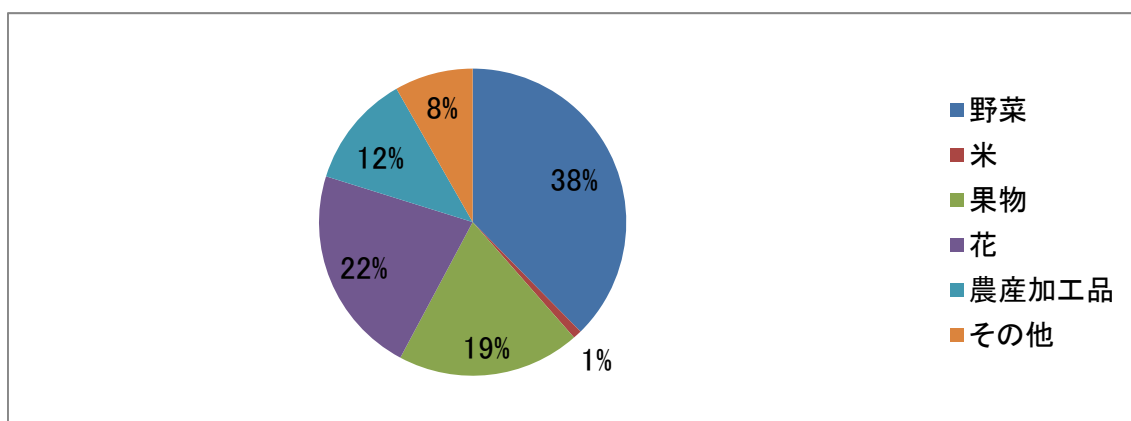


②購入商品

図表 12 に購入商品を示す。これまでの場合と同様に、野菜が 38%と最も高く、次いで花が 22%、果物が 19%となっており、これに米も含めると 80%ととなり、生鮮農産物が購入商品の 8 割にも上っている。しかしながら、他の朝市とは異なり、農産加工品の割合が 12%、その他が 8%となっている。この内容を詳しくみると、肥料に加えて、朝市に出店しているカフェのコーヒーに加え、パンやあじご飯などが該当する。

利用者が購入する商品の中心は農産物ではあるが、農産加工品やその他の商品を購入する割合が他の朝市に比べて高くなっていることも、この朝市の特徴である。

図表 12 主な購入商品

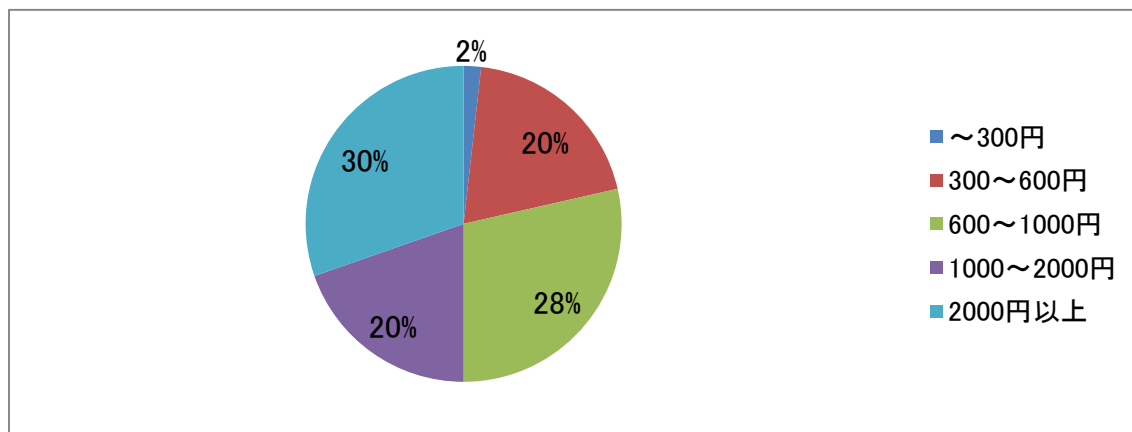


③利用額

図表 13 に来場者の平均利用額を示す。みられるように、最も割合が高いのは 2,000 円以上で、30%となっている。次いで、600~1,000 円、300~600 円と 1,000~2,000 円が 20%となっている。2,000 円以上の金額と回答した利用者の割合が高くなっているが、1,000 円までという範囲で見た

場合には、半数となっていることから1,000円までの利用者と1,000円以上の利用者が半々ずついるという結果になっている。

図表 13 利用額



3) 二事例の小括

いずれの場合においても、販売される中心的な商品は生鮮農産物であった。また、朝市利用者については10回以上の経験があるという利用者が多いことからわかるように、リピーターが多くなっていた。そのほかにも、利用者の特徴としては若年層よりも中高年層が多くなっていた。以上のことから、こうした朝市の特性を考慮したうえで、利用者の増加や活性化を図っていくことが重要になっていくといえる。

特に、新規利用者の獲得については、既存の利用者である中高年層に対応した形でのサービス提供や情報提供に加えて、若年層が比較的利用しているインターネットを通じた情報提供など、2つの側面から新たな利用者を獲得するための取組みを進めることが重要である。さらに、今回の調査では実施できなかった点である、買い物弱者と買い物問題との関係である。主な利用者である高齢の消費者の買物行動との関係でも、地域内の新鮮な農産物の購入場所で比較的近い生活圏で開催されていることから、買い物弱者と考えられる層の買物問題にも貢献しているのではないかと考えられる。

2. 参加学生の意見

本節では調査などを含む事業参加者の意見を中心にみていくことにする。なお、参加学生のうち、レポート提出のあった学生の意見を掲載した。基本的に、本文は誤字脱字を除いては、原文のままとしている。また、学生によっては、事業推進と関連して、フェアへの参加と調査の両方を行った者、調査のみに参加した者がいる。また、消費生活フェアについては昨年度に引き続き参加している学生もいる。

そこで、(1)昨年に引き続きフェアに参加した学生、(2)消費生活フェアと朝市調査に参加した学生、(3)朝市調査にのみ参加した学生の3つに区分した。なお、消費生活フェアへの参加者に

については、①朝市調査時の感想、②消費生活フェアへ参加しての感想という2点に分けて作成するように指示した。これは、両者に対する感想を明確に書いてもらうという意図からである。

(1) 昨年に引き続きフェアに参加した学生

【意見 A】

今回の消費生活フェア(調査の段階も含めて)は全体的にとても自身の変化を感じられるものであったと思います。

まず朝市での調査では、朝市へのアポ取りがかなりスムーズに行えたことは大きかったと思います。K君が今までに朝市を巡って顔を覚えられていたこともあり、調査時に様々なお話も聞くことができ、次につながられるような話や農家さんへの紹介もしていただき、調査だけでも大きな意味があったと思います。また、今回の調査を通して主催者側や生産者側への質問も行ったら、もっと面白い結果が見込めるのではないかと思います。今回、調査した朝市は、「地産地消」、「地域農業の振興」などが目的でしたが、そのほかの種類朝市など地域特有の朝市なども見に行きたいと思いました。

次に去年との出展の比較ですが、展示の仕方はあまり変わりませんでしたが、今回は去年の研究室に関しての説明とは違いグラフデータを貼って、それについて説明していくという形式だったので、自分たちの「考察」が入っていました。やはり考察が入っていると注目する点自分中心で主観的になってしまうので、より多くの側面から説明できなかつたという点もあれば、話を聞きに来てくれた方の意見に気づかされるという面白い点もありました。

今回は、メレンゲさんのほかにK先生のゼミ生と合同で行いましたが、さすがに人が多すぎたのではないかと思います。あれでは仕事をしている人間とそうでない人が出ても仕方がないと思います。また、メレンゲさんと研究室の情報はある程度までは共有していたのでお互いざっくりと説明できましたが、ゼミ生のところについてはその日が初顔合わせの状態ですべての準備が不十分であったと思います。そして事前準備でもう一つ、ハーブの販売の件については、T先生やメレンゲさんの協力があったので当日に間に合ったものの、小さな話し合いで提案された案に関してはしっかりと「共有」し話し合わなければならない(下線、筆者)とつくづく思いました。

今後の課題についてですが、要約すると

【調査】

- 調査場所の決定理由が、K君が主催者と顔見知りという理由で新たな場所への進出につながらなかった
- 調査に手間取り、主催者や出展者さんへの質問(アンケート)が出来なかった。
- アンケートで、少し不十分な質問項目があった(特に年代と朝市に来る理由)

【準備・出展時】

- 事前の情報共有
- ゼミ生との連携

- 知識の少なさからの超主観的説明
- グラフの見易さ
- (去年に引き続き)早めのフェアへの参加目的の決定

【意見 B】

①朝市市場調査時の感想

今回、初めて外部でアンケート調査を行いました。アンケートをつくることから初めて、こんな質問事項はどうだといった、聞きたい質問を決めることから、こうしたほうがアンケートは見やすいのではないかといった、些細なことまで全員で考えました。

またアポ取りの際には、T 先生からのメモを生かしながら、代表者の方に許可をいただくことができました。二つの朝市にて一言返事でいいよと、言われた時はとても嬉しかったです。またアポ取りを行っている時に出店している方々から声をかけていただき、いろいろなお話を聞くことができました。他の朝市の代表者の方にもあえて、次回やる時には、ぜひお願いしたいと言われたことも嬉しかったです。

アンケート調査の当日には、同じ研究室や同じ大学の友人が手伝ってくれて、とても助かりました。二つの朝市に行くことで、その時その場でしか得られない情報をたくさん見たり、聞いたり、感じたりすることができました。

②前年度の出展に比べて、今年はどうだったか

前年度は学内にて取り組んでいることの紹介を行いました。あの時は人前で説明することの緊張からうまく説明することができなく、先生方に頼りきりでした。今年も先生方に頼る面も多くありましたが、自分の力で来場者の対応ができる面もありました。昨年度とは違った充実感や満足感を得ることができましたが、まだまだ未熟だなと思うところもありました。

今年は、朝市の市場調査を行う際に先生方がご都合により、いない状況下で調査をすることになりました。ただその分、自分たちにしかない武器の「現場を知っている」というところが自信にもなりました(下線、筆者)。

ただ今年は去年より、データは多いですが、写真が少なかったのでなんとなく、見栄えが悪かったように感じられました。

③今回の出店を受けての課題、今後の展望に対する自分の考え

課題としては、アンケート調査の作成などをもっと作りこむことができたのではないかと、もっとしっかりとした目的意識を全体で共有するべきだった(下線、筆者)のではないかと思います。

それと、写真が少なかった分見栄えが悪かったように感じました。

今後の展望としては、再度同じ朝市をもっと具体的な質問や新しく疑問に思ったところなどをアンケート調査にて、見やすくすることもいいかなと思いますが、他の朝市にて今回のアンケート調査を

行い、地域特性を比較するのも面白いのではないかと思います。二つの朝市を調査して特にこの点が気になりました。

以上のことから、昨年のフェアの出展を経験した学生は、当然のことながら、昨年度の対応と比較したうえでの今年の展示の感想ならびに、調査を行ったうえでの問題点などを指摘している。また、朝市の雰囲気よりも調査の手法や発表方法などの面に関する意見が集中している。

今回の課題として挙げられているのが、情報共有の問題をはじめとしたチームの運営である。情報共有の問題は、【意見 A】では「小さな話し合いで提案された案に関してはしっかりと「共有」し話し合わなければならない」、【意見 B】では「もっとしっかりとした目的意識を全体で共有すべきだった」という指摘がある。そのため、今後、これらの取組みを進めるにあたっては、関係者間の情報共有に加え、運営当時のマネジメントをしっかりと行うことが必要になっていくといえる。

(2) 消費生活フェア(今年度から)と朝市調査に参加した学生

【意見 C】

消費生活フェアの感想

まず、消費生活フェアで発表するために朝市の調査に行きました。最初はJA羽黒朝市に行きました。初めてのアンケート調査で勝手が分からず苦勞しましたが、なんとか終わることが出来ました。JA羽黒朝市では3人で調査を行っていたため、少し人手不足を感じました。次にJA愛知北犬山朝市に行きました。今回は2度目のアンケート調査だったため慣れていたので、より多くの人にアンケートをお願いできましたと思います。JA羽黒朝市よりも規模の大きいものでしたが、2年生の先輩が2人ほど手伝ってくれたのであまり人手不足を感じませんでした。

消費生活フェアでは、自分たちが調査してきたことをいかに分かりやすく伝えるかを心がけました。なかなか上手く説明できたか不安で、今後はもっと事前に説明の仕方や引き込み方を考える必要があると感じました。消費生活フェアで発表していて一番印象に残ったのは、人との繋がりでした。たまたま来てくださった方が菰野町湯ノ山の歴史に大変興味のある方で、湯ノ山温泉芸術文化交流楽園というところの代表の方でした。自分は菰野町に住んでおり、経済学部特別研究室の活動の一環で楽田歴史文化を守る会に参加して歴史文化の保存や宣伝に携わっているので、すぐに話がはずみました。消費生活フェアのような場に参加することで、普段の活動がもとで人とのつながりが広がっていくというのは素晴らしいことだと思います。今後もこのような機会があれば積極的に参加していきたいです。

【意見 D】

今回の朝市の調査は自分にとって有意義なものだったと思う。自分は土、日の朝などはあまり早く起きたことはなく(むしろ平日も学校が休みなら昼まで寝ているくらい)朝市のためとはいえ早く起

きたことは久しぶりだったし、地元の朝市に出たのはこれが初めてだと思う、いざ朝市に出席して色々朝市の調査、手伝いをしていくうちに朝市というものを少しは知ることが出来たと思う。朝市での出品物はやはり野菜が多かったが多数の出店者が出している分来店してくれた人も吟味して買っていき様子が見受けられた。朝市に来ていた人は50代以降の女性の方が多く男性の方も少しは来ていたが20代などの若者の姿は見受けられなかった。朝市の出品物に関しては先ほど書いた通り野菜が主だったが他にワンリサイクルやパン屋などがあり朝市ごとの特色といえるだろう、自分はパン屋さんでパンを買い食べたがいつも売り切れるだけあっておいしくこういうのを発見堪能できるのも朝市の醍醐味ではないかと思った。

朝市は地域交流の場でもあるしスーパーなどにはない人の温かさを感じられもっと朝市を活気づかせたいとも考えるきっかけにはなったと思う(下線、筆者)。また機会があれば他の朝市にも出向き朝市ごとの違い特色を見比べることもおもしろいと思った。

消費生活フェアでは様々なブースが点在するなかでその一角を借りて出展することとなった。今回の出展ではやはり朝市のデータがまだ十分に揃っていなかったように見受けられ、他ブースと見劣りしてしまうと感じたそのため訪れる人も少なくあまりアピールできなかったと思う(そんなに宣伝してないのもあったろうが)今回の出展の課題としてはもっとデータを集めることと人を引き付けさせる何かが必要だと感じた(見た人が興味をそそられるようなのを)今後の展望に関しては朝市に関する分野だけでなくもっと他の分野にも足を伸ばし今後の名古屋経済大学のブースの発展に寄与していければと考えている。

【意見 E】

1. 朝市調査時の感想

朝市調査をした感想は、商品があまり売れていないというのが一番印象にありました。来客数も少なかったですが、来ても買わない人や、買ったとしても少量の人が結構いました。これは友達と喋るのが目的の人や、朝市の雰囲気を楽しむために来ている人がいる(下線、筆者)からだと思いません。

あと、単純に来客数が少ないと感じました。これはもともと課題として浮かび上がっていたのですが、常連客が多く新規の客が少ないのがアンケートでも目立ちました。

さらに、商品についても見た目で選んでいるところがあり、同じ野菜を売っているお店でも見た目が良いほうのお店のほうが売れているように感じました。朝市とはいえある程度見た目も重要だと知りました。

2. 今回の出展を受けての課題、今後の展望に対する自らの考え

今回の出展を受けての課題は、私たち岸野ゼミのメンバーが知識不足だなと感じました。研究室の人たちと違いあまり説明ができていなかったと思います。私も説明できる自信がなく消極的な行動となってしまいました。

他の出展した所を見学して感じたことは、私たちのような展示をして説明をするところより、ゲーム、アンケート、問題など体験したりするところの方が人の数が多かった気がします。これは私たちのところだけでなく全体的に展示と説明のところは人が少なく、アンケートなどを行っているところが多かった気がします。

今後の課題は上で挙げたような体験できたりするような形にしたほうが良いと思います(下線、筆者)。しかしティッシュなどを景品にしないとあまり人の数も増えないと思うので難しいと思います。景品がないにしろ問題形式やアンケートをとる形にするだけでも効果はあるとは思いますが。

【意見 F】

朝市の調査を始めた時は、朝市のことをそんなに知らなかったのだが、主に人が食べ物などを売り出しに来るものである。朝市はスーパーなどで売っている商品より高いと思う人もいれば安いと思う人がいますが、それは人それぞれだと思います。アンケートをとって見た所、朝市では子供からお年寄りまで様々な人がいました。その中で明らかに多かったのがお年寄りの方でした(下線、筆者)。その主婦たちは食品ばかり購入していました。ということは、朝市という所は安く健康で美味しい食品を販売している(下線筆者)と思われる。しかし、そのお年寄りは、買い物だけでなくその販売者たちとのふれあいを大事にしていたと思われる(下線、筆者)。

今回の出展では、初めてであったために分からなかったことも多かったですが、とても勉強になりました。この消費生活フェアでは自分たちは朝市でおこなったアンケートの展示をしました。この消費生活フェアでは様々な方が参加してくれました。お年寄りから若い人まで見に来てくれました。やはりこの消費生活フェアには、興味を持ってくれた人がたくさんいました。今後、消費生活フェアで展示するに当たり大事であると思うことは、もっとわかりやすくできないものかと考えました。

【意見 G】

①朝市調査時の感想

僕が朝市の様子を見て感じたのは、お客さんが高齢者ばかりで顔見知りほとんどだということです。このまま続けていては、そのうち終わってしまうだろうと思います。

次に、パンなどの人気の商品はすぐに無くなってしまいうけど、売れないものは最後まで全然売れず、そのまま持ち帰っている人がいたことが気になりました。せっかく朝市に出店したのにほとんど売れず持ち帰ることは悲しいことなので、なんとかしなくてはと思います。そのためには、集客力アップが効果的だと思います。そうすることで全体的な売り上げが増え、パンなども売れ残りを気にせず量を増やせるので、いいと思います。また、一度来ただけで二度と来ない人を減らすためにも、楽田の朝市の魅力を増やしていけたらいいなと思いました。

②今回の出展を受けての課題、今後の展望に対する自らの考え

今回の出展を受けての課題は、もっとたくさんの人の興味を呼ぶような内容に発展していけたらいいと思います。調査した内容や、出展した内容はすごく良いものだと思いますが、お客さんからしたら興味を引く要素が少なく、カフェのハーブの方が人気だったと感じます。

今後の展望に対する自らの考えは、これから朝市の調査をもっと深めて、なにか皆の興味を引く内容があれば、もっとお客さんは来ると思います(下線、筆者)。僕は、朝市の調査がまだ途中の段階で展示が来てしまったと思うので、これからも調査を続けて、アンケートを取り、提案し、実行して、朝市の利用者がどれだけ増えたというところまでいけば調査がきれいに完成し、展示にももっとお客さんがくると思うので、このまま進めていくのがいいと思います。

これらの意見においては、【意見 D】の「朝市は地域交流の場でもあるスーパーなどにはない人の温かさを感じられもっと朝市を活気づかせたいとも考えるきっかけにはなったと思う」という記述にもあるように、朝市が地域交流の場であると感じていることがみてとれる。これは、【意見 E】の「友達と喋るのが目的の人や、朝市の雰囲気を楽しむために来ている人がいる」というところにも同様の意見がみられる。

さらに、【意見 F】では「朝市では子供からお年寄りまで様々な人がいました。その中で明らかに多かったのがお年寄りの方でした」、「朝市という所は安く健康で美味しい食品を販売している」、「買い物だけでなくその販売者たちとのふれあいも大事にしていたと思われま

す」と朝市の性格に関する詳細な記述がみられる。このようなことから、調査を通して朝市を単なる物品販売の場ではなく、地域住民の交流の場であると捉えていることがわかる。つまり、朝市が地域における消費者同士の交流、消費者と生産者の交流の場として機能する場であると捉えていることがわかる。もちろん、これらの点については、調査を実施する前に教員から学生に対して伝えらうえで、学生が調べるなどの作業は行うが、改めて参加者の間で再確認できたのではないかと考えられる。

(3)朝市調査(2013年12月21日)にのみ参加した学生

【意見 H】

今回初めて楽田ふれあいセンターでの朝市の利用者アンケート調査の原稿を自分で考えてみました。

初めて作ったアンケートは自分の中では最高にいいアンケートができたと思っていましたが、研究室の人に見せてみると質問が多すぎて見にくいとか内容が分かりにくいなどのダメ出しが多くかなりショックでした。

最終的にはT先生やT君に助けられていいアンケート原稿を作成することができたのでよかったです。

今回のアンケート作成で思ったことは、今まで軽視していたアンケートを皆さんにわかりやすく、

いかに簡素に質問する難しさ、大切さがわかりました。

楽田ふれあいセンターでは、今回初めて楽田ふれあい朝市のチラシを作成して配布したので、今まで利用していた、リピーターのお客様以外に、新規のお客様もたくさん朝市会場に来ていただいたので、自分で作成したアンケートを現場で配布して、たくさんのお客様の反応を肌で感じる事ができ、とても貴重な体験と集計をとれたと思いました。

忙しい中アンケートに回答して下さった58人中82%の方が女性で、年末と言うこともあり、野菜、花を購入された方が半数以上見えました。

今回初めて、チラシをポスティングした効果はかなりあった様で、全体の半数以上の方がチラシを見に来て、という方が多くいたので、これからもチラシを作成していけばもっとお客様を集客することができ朝市全体の売り上げを伸ばすことができると思います。

チラシを作成するに当たり、目玉商品や目を引くチラシの記載があればよりいっそうのお客様の集客が得られるとおもいます。

また、機会があればもう一度アンケートを作成したいです。

次はだれにもダメ出しをされないような完璧なアンケートが自分一人で作成できるようになりたいです。

【意見1】

私はアンケート調査を体験しました。初めてやるので色々と大変でした。私がやる役目としては司会進行役、今後やっていくスケジュール表の作成です。

まず何からやっていけばいいのか分からなかったのでアドバイスをもらったなどして作業に取り組みました。一応自分でやってみて出来たら見てもらって編集するところはして(ほとんど編集されました)直していきました。パソコンもあまり使わないので色々な機能を教えてもらって、結構楽しかったです。

そしてようやくスケジュール表の完成です。スケジュール表が出来たら調査に加わる関係者と一緒にミーティングを開き話し合いをしました。アンケートはこれでいいのか?など自分達の意見や議論しながらミーティングは終わりました。

そしてよいよアンケートの実施開始です。お客様に声をかけるのはアルバイトで馴れているので楽しくやれました。だいたい25人ぐらいの方にアンケートをやらしてもらいました。

自分でやっていて気付いた事がとにかく年配の方が多いと言うこと、自分がやったアンケートで若い方は30代の方2人だけでした(下線、筆者)。少ないです。ですが今回、楽市のアンケート調査を終えて色々と学ぶ事が出来ました。ありがとうございました。

これまでの意見にも出ていたように、朝市の特徴に関する意見がみられる。【意見1】の「自分でやっていて気付いた事がとにかく年配の方が多いということ、自分がやったアンケートで若い方は30代の方2人だけでした」という記述である。ここにもあるように、朝市の利用者には高齢者が多く

みられ、若年層が少ないということが見て取れる。しかし、30代が2人いたということからも、関心のある若年層の消費者も存在するので、こうした消費者を利用者としていかに確保できるのかというのが重要になることが改めて確認できる。

IV. 総括～事業実施と学生への消費者啓発の意義～

本事業では地域における小規模流通の事例として大学周辺地域で開催されている朝市を事例に取りあげて、これらの朝市の利用者調査を中心に進めてきた。もちろん、これには地域における朝市の利用状況を調査し、朝市の活性化を図るという目的がある。しかし、本事業の意義でも言及したように消費者教育推進法が規定するなかにもあるように、若年層の消費者である学生が、朝市という地域の活動の調査を通して、消費者として持続可能な社会形成に関して積極的に参加するということに大きな目的がある。

先ほどの学生の意見で言及したように、朝市調査によって、朝市が地域社会において重要な役割を果たしていることを学生自身が確認できたという点が大きいといえる。朝市が単なる物品販売の場としてではなく、地域住民の交流の場として機能していること、特に高齢者の交流の場を提供している点を再確認した学生が多くみられる。また、調査の計画を立てる、実施する、分析する、まとめるという一連の活動を通して、自らの課題(チームのマネジメントの問題、調査に関する自らの知識量の不足などの問題、他人に伝えることの難しさなど)に気づいた学生も多い。

今回の事業は、朝市の調査活動を通じた学生からの地域住民への啓発というよりは、朝市の調査活動を通しての学生への啓発という面で非常に大きな役割を果たしたのではないかと考える。今後、朝市のみならず地域における小規模流通に関する研究を行う必要があるといえる。しかし、今回の事業推進のように、若年の消費者である学生にも参加してもらい、教員・学生・地域の三者の関係のもとで進めていくことが大学や地域の消費者啓発において重要になっていくといえる。

【参考文献】

1. 森本剣太郎、鈴木 武『朝市の現状基礎分析－沿岸域の地域活性化に向けて－』国総研資料第 559 号、国土交通省国土技術政策総合研究所、2009 年。

第 2 部 学生の立場から見た事業

I. 調査概要

今回、私たちは朝市をどういった方が利用しているのか、利用の目的は何か、といったことを調査しました。調査は、名古屋経済大学の近くにある二つの朝市でアンケートを実施しました。

現在、私たちの研究室では地域での活動を進めるために、実際に地域に入って様々な活動を行っています。特に、本年度は楽田コミュニティが主催する朝市(楽田ふれあい楽市)の集客をどのようにしたら増加させられるかという点について取り組んでいます。今回の調査はこの課題の解決とも大きく関わっています。

アンケートを実施する際には、当然ながら項目を設定する必要があります。ここでの質問内容としては、年代、性別、交通手段、開催場所までの所要時間、朝市での滞在時間、ここ以外の朝市で知っているものがあるかどうか、朝市を知ったきっかけ、来場回数、主な購入商品、朝市に来る理由、平均使用金額の 11 項目です。

年代、男女比を明らかにしたうえで、どこから朝市へ人が集まるかなどの基本情報を収集しました。そして、朝市に来る理由など、「朝市」そのものが持つ魅力などを調べるため、これに合わせた形の質問内容にしました。

ほぼすべてが、選択式の質問です。「ここ以外の朝市で知っている朝市があるか」という質問では記述式としました。これはアンケート調査を実施した朝市のほかに周辺に朝市があるところを知っているか、また他の朝市にもいくことがあるかなどという情報を収集するという目的があります。その情報から、自分たちの知らなかった朝市を知ることもできました。

なお、朝市の調査を 2 ヶ所としたのは、単に朝市の代表者と知り合いであったと言うことが大きいです。しかし、それ以外にも大学のある犬山市内にどのような朝市があるのか、特に大学周辺の朝市の状況がどうなっているのかを明らかにするという目的があります。

II. 調査内容

1. 羽黒朝市

まず、アンケートを実施した 1 ヶ所目は羽黒朝市です。ここは小牧線の羽黒駅のすぐ近くに位置していて、小学校や住宅街に隣接している JA の敷地を借りて開催しています。1997 年ごろから朝市を開催しており、「地産地消と新鮮な野菜の販売」を目的として、朝市を開催し始めました。

朝 6 時～8 時の開催で、出店数は 15 件あり、扱っている商品の中心は野菜や卵、花、季節によっては、米やイチゴなども販売しています。平均来場者数は約 30 人で、男女の比率は 2 対 8 でした。ここでの男性(2 割)も単独ではなく、夫婦で来場している人が多かったです。ただ、私達がアン

ケートを実施したのは9月の中頃だったので、来客数は多い方でした。しかし、冬になると来場者数は少し落ち込むということでした。

来場者の90%が70代～80代の高齢者です。ここの朝市の出店者数はそれほど多くなく、突出して有名なものがあるわけではありませんでした。しかし、朝市開始前からお客さんが殺到しており、始まるのを待っているという光景がありました。私達が関わっている楽田の朝市のイメージからすると、それはとても奇妙なものでした。楽田の朝市では(?)出店者や開催者の側も、開始時間から何分か経ってから、ちらほらとお客さんが来ることを当然のように感じているようでした。

なお2つの調査の結果ですが、楽田と羽黒では年代層や男女比、交通手段に関しても電車を活用する人や自転車を活用する人など大きな差はありませんでした。

図表 14 開始前の光景



このような結果が出た理由には、羽黒朝市の周辺がスーパーなどに買い物に行くには不便なところに位置しているという理由があげられます。つまり、「買い物弱者」が発生しているところに朝市が存在し、朝市が住民の買い物の重要な拠点となっていることが、影響しているのではないかと考えられます。

また、住宅が多く点在しているため、自転車や徒歩といった交通手段でもすぐに来場できるという点も影響しているといえます。さらに、朝早くから開催しているということもあり、朝食の食材を買いに来るという人もいました。これは、調査中のインタビューで確認できました。その他にも、朝市を知ったきっかけでは、大半が人づてで知った人ばかりでした。しかし、なかには地域情報誌、公報といった宣伝によって朝市に来てくれる人がいるようです。羽黒では、チラシの配布を一度行っていたようで、ポスティングも少なからず効果を発揮するようです。

次に、羽黒朝市での利用額の割合は、0円～500円までが14%、500円～1000円が48%、1000円～2000円が29%、2000円～3000円が9%という結果になりました。野菜が100円～300円、そのほかの商品でも300円～500円が相場だったので、比較的客単価は高いのではないかと考えられます。滞在時間は平均16分とかなり早いのではないかと感じました。毎回来ている人が多いこ

とも考慮すると、朝市の来場者は購入したいものが決まった状態で来場しているようです。特に、野菜などの価格が安いこともあり、利用額は500円～1000円が一番多かったです。アンケート結果の中でも9%の2000円～3000円を利用額として答えた人たちは、時期にもよりますが、羽黒朝市で販売されている米やいちご、そのほか少し高価な卵などを購入したのではないかと思います。

この朝市に来る理由としては、「新鮮な食材を求めて」が圧倒的に多く、次に「安い食材を求めて」でした。少数意見ではありますが「楽しそうだから」や「特産物を求めて」などの意見もあり、娯楽という側面を求めている面も少なからずあるようです。

また、質問事項にあった「朝市に来た回数」の回答は8割以上の方が、10回以上と回答しており、リピーター率の高さが見て取れます。なかには、出店者に顔見知りの方がいるようで、買物が終わっても楽しそうに世間話をしている人も見受けられました。こうしたことは、同時に「この生産者の作った作物なら安心だ」という安心感を得ることにもつながるので、これを求めて買物に来ているのではないかと考えられます。なお、今回はアンケートに参加してもらえませんでした。外国人の方も多く見受けられます。少しずつではありますが利用者も増加傾向にあるようです。

ここでのアンケート調査は皆さん積極的に参加してくださいました。「羽黒朝市に関する市場調査のアンケートを行っています」と伝えると、「それなら協力しなくちゃ」と言って協力していただきました。市場調査には関係ありませんが、羽黒の朝市の問題としては生産者の高齢化が進んでおり、冬場の朝市への出店が厳しい方もいます。これは、朝市での買物が重要なものとなっている人に対しても影響があるのではないかと考えられます。

2. 犬山愛知北朝市

この朝市は2007年から始まった比較的新しい朝市です。開催の目的は「地産地消と農業振興」です。店舗数も約40店舗で販売している商品も多岐にわたって取扱っており、農産物の量もかなり多いです。お茶やお菓子などの加工品も多彩に取り揃えているほか、生花だけを専門に取り扱っている店舗もあります。この店舗は高齢者にはかなり好評です。

そして、この朝市の特徴は遠くからも目立つということです。JA 愛知北の駐車場で開催しているのですが、周りは田んぼに囲まれており、少し離れたところに団地が点在するだけです。遠くからでも朝市の様子がわかります。そのため、この朝市を印象づける農作物を日差しから遮るために使用している青いテントがとても目立ちます。

しかし、冬になると図表16にありますが、建物の前ではなく、青いテントと建物の中に出店場所が変わります。しかし、来場者数には影響なく平均50人ほど来ています。男女比も羽黒朝市と全く変わらず、2対8です。年代も他の朝市と変わらず70代～80代が中心ですが、こちらでは30～40代の子連れの方が比較的多く見られました。

開催時間は8時～10時まで、こちらも開催時間より早くにお客さんが集まっています。JA 愛知北の駐車場で開催しているということもあり、車での来客者が多く、広い範囲から来場しています。羽黒朝市とは異なり、かなり賑やかな雰囲気です。地元の人が買い物に来るのはもちろんですが、観光の一つとしてお客さんが立ち寄るような活気があります。

こちらの代表者は JA に勤めている方ですが、朝市に参加している生産者は呼びかけによって集まった方々だそうです。基本的には周辺地域の農家が出店しています。代表者の話では、農産物の中でもトマトやイチゴの人気があるので、これらの作物を栽培している農家を探しているとのことでした。

図表 15 JA 愛知北朝市の様子



図表 16 冬季の愛知北朝市



平均滞在時間は 28 分でした。やはり店舗が多い分、時間をかけて買い物をしている方が多かったです。こちらでも、羽黒朝市のように知り合いの生産者との世間話や友達と来場して、話しながら買い物を楽しんでいる来場者も見られました。

また、愛知北での利用額は 0 円～500 円が 7%、500 円～1000 円が 32%、1000 円～2000 円が 53%、2000 円～3000 円が 8%でした。羽黒朝市に比べて 1000 円～2000 円の利用額の割合が多いようです。朝市なので商品は比較的安価ではありますが、品目数が多いことと車での来場が多い

分、大量に買い物をされる方が多いようです。

この朝市に来る理由では、羽黒朝市と同様に「新鮮な食材を求めて」が一番多く、二番目は「安い食材を求めて」でした。少数意見に目を向けると、品目数の多さから「大量の食材を求めて」という回答が少しありました。そして、図表 15 や図表 16 からわかるように、かなり賑わっています。そのためか、「楽しそうだから」という理由の人も 7 人もいました。その他に「特産物を求めて」という回答もありました。出店者の中には、あまり一般的ではない、珍しい作物を取り扱っているところもありました。

愛知北朝市では、とにかく来場者数が多く年齢層も幅広いという特徴がありました。子ども連れの女性もいましたし、孫を連れて来た来場者や孫を連れて来た生産者もあり、連れて来た人も楽しそうに朝市を巡っていたのは印象的でした。しかし、こちらの朝市も出店者不足に悩まされており、今のところ新たな出店者を募集中とのことでした。集客率は全く問題ないのですが、やはり農業人口の少なさや高齢化が浮き彫りになっているようです。

Ⅲ. まとめ

今回、朝市の市場調査を実施しましたが、アンケートの結果を見て、共通して見えてきたことは「新鮮で、安心して食べられる商品で、なおかつ安い!!」という理由で、多くの人々が朝市に来ているということです。新鮮で安いという点では、生産者がさほど離れていない畑から、まさに「産地直送」で朝市に持ってきていますし、値段に関しても生産者が個人でつけた値段ですので、スーパーなどよりは安いです。「朝市」が安心して食べられるものを扱っているという場となっているのは、消費者と生産者が「顔が見える関係」で取引を行い、その積み重ねのなかで信頼関係が築き上げられているからであると考えます。

実際に、朝市に行った個人の意見としては「朝市はスーパーやコンビニなどにはない生産者と消費者との信頼関係が築かれているとともに、その地域によって朝市らしさがある」ということを感じました。信頼関係に関しては、アンケートの結果からも見えてきましたが、「朝市らしさ」は実際に行って見たからこそ感じるができるものです。犬山愛知北朝市のような目立つ場所で、観光で訪れる人が来るような雰囲気活気のある朝市、羽黒朝市のような地元の人が必要としている朝市など、地域の特性が朝市には表れていたように思います。今回の調査を通して、他の朝市にはどのような特性があるのか非常に気になりました。このような地域の独自性は、犬山愛知北朝市のように地域資源になるのではないかと思います。

今回、初めて朝市調査を実施しました。アンケートの結果から分析して見えてきたこともありましたが、現地調査で得られるナマの声は、アンケート結果よりも身近に感じられるものでした。今回の調査は私達のこれからの活動にも意味のあるものになったと思います。

第3部 参考資料

参考資料1 消費生活フェア作成資料

研究室作成資料

大学で農業！？



【活動のきっかけ】

私たち地域社会研究チームは、**地域活性化**を目標に活動しています。大学周辺には遊休農地が多いことから、そうした農地を活かした地域活性化のためにはどうすればよいかを考えました。

食と農を軸とした活性化として、何かできるかというときに農産物の付加価値化を行うことが重要ではないかと考えました。そこで、学内に農地を作り、有機農法による農産物の栽培を始めました。

学内農地（2012年～）

2012年

- ・ハーブ育てる。
- ・マリーゴールドなどを育てる。
- ・トマトの苗を植える。
- ・にんにくの栽培。

2013年

- ・授業（「体験型プロジェクト」との連携（**写真2**））
- ・新たなハーブ（アツルミント、ステビア、ルッコラ）の栽培
- ・新たな作物（芽キャベツ、スティックセニョール、つる紫）の栽培

写真1



2009年当初は、**荒地状態**でした。

写真2



大学の授業でも学内農地を活用しました。

写真3



大きさは個性ですが立派なにんにくが収穫出来ました。

今後の活動

- ・収穫した作物を朝市などでの販売
- ・コンパニオンプランツの研究
- ・様々な団体との協力による活動の情報発信
- ・学内農地の管理と栽培する作物の検討
- ・研修旅行（2012年度は滋賀県で研修）



大学周辺の朝市調査

朝市とは早朝～午前中に開かれる定期市です。目的は地域ごとに異なりますが、地産地消や観光等の目的で開催されることもあります。今回、私たちは朝市をどういった方が利用しているのか、利用の目的は何か、といったことを調査しました。大学周辺の朝市(2ヶ所)でアンケートを実施し、結果を比較しました。

調査先の概要

JA羽黒朝市

場所: 愛知県犬山市大字羽黒字前川原47-2
設立年: 1997年頃
目的: 地産地消・新鮮な野菜の販売など
出店状況: 約15件
来場者男女比: 2対8
来場者年代: 50～70代
主な交通手段: 徒歩、自転車、電車
平均所要時間: 約10分
平均滞在時間: 16分

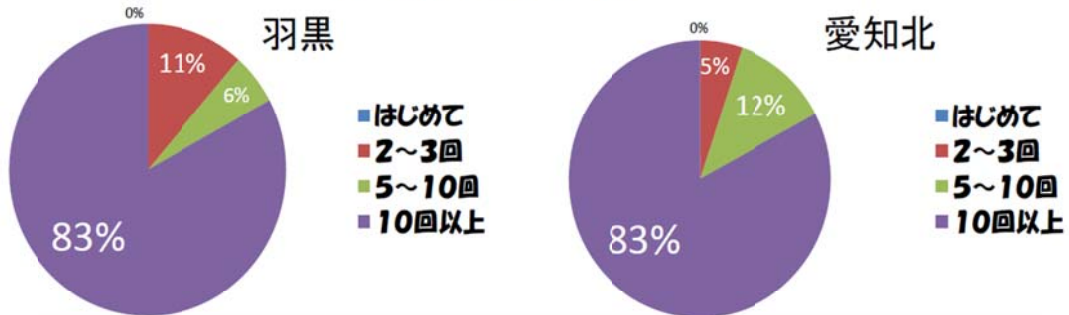


愛知北犬山朝市

場所: 愛知県犬山市塔野地西4-1
設立年: 2007年
目的: 地産地消・農業振興など
出店状況: 約40件
来場者男女比: 2対8
来場者年代: 40～70代
主な交通手段: 車、自転車
平均所要時間: 12分
平均滞在時間: 28分

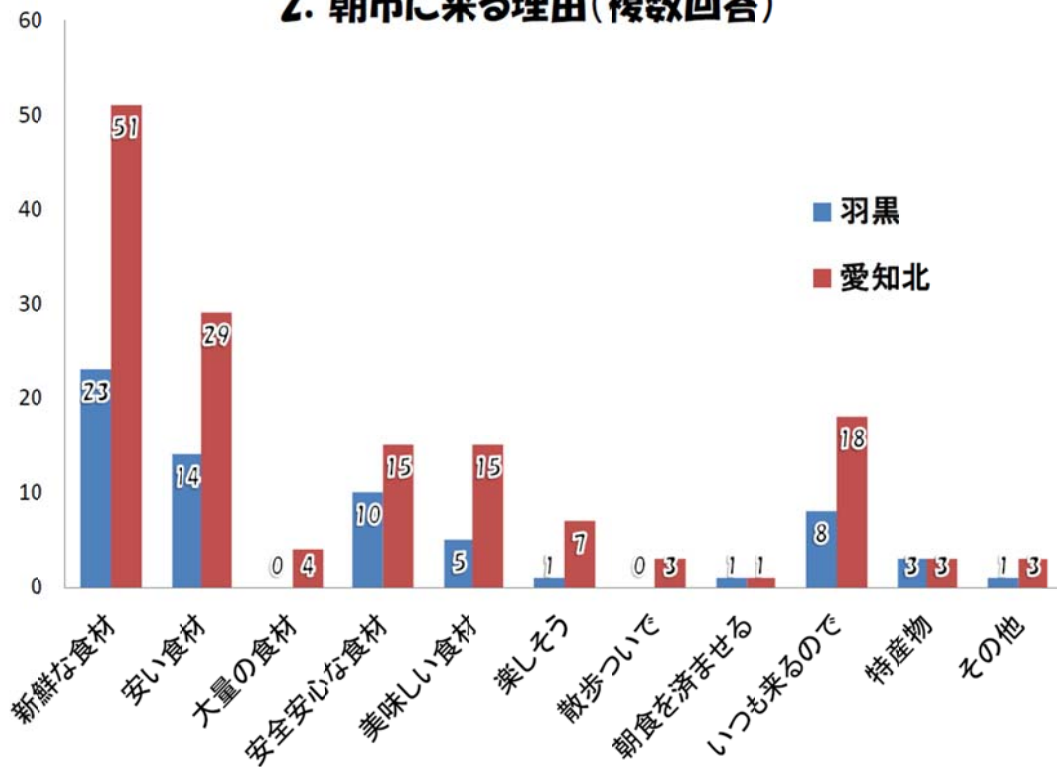


1. 朝市に来た回数



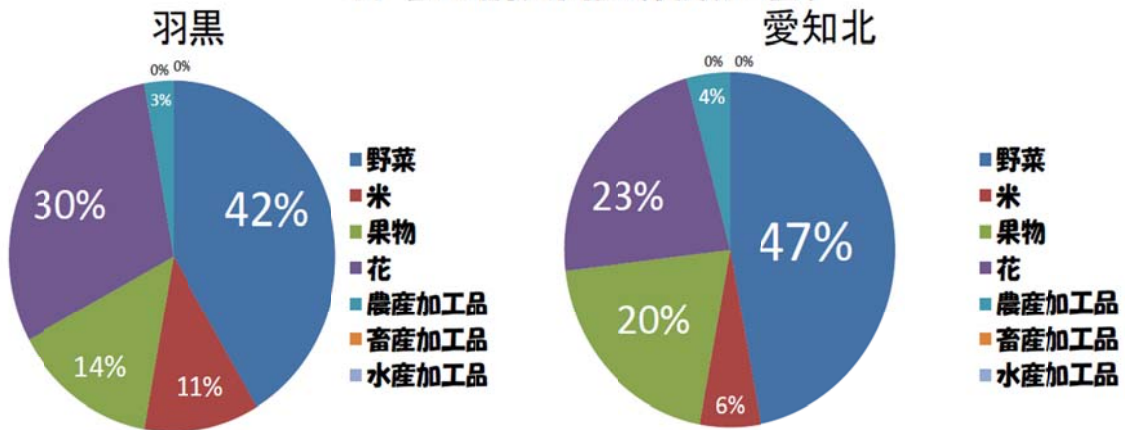
- ・来場者のほとんどが常連の方でした。
- ・今回初めて来た方はいませんでした。
- ・2回~10回未満も約20%ずついるので、常連とないうる方もいるようです。

2. 朝市に来る理由(複数回答)



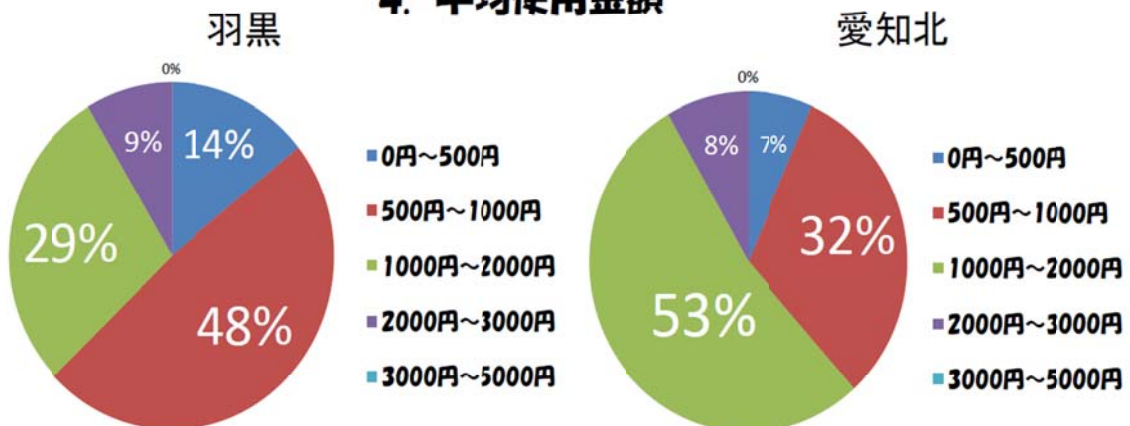
- ・両方とも「新鮮な食材」、「安い食材」、「安全安心な食材」というように、食材に関する回答が多くなっていました。
- ・少数意見を見ると「特産物を求めて」、「楽しそうだから」などもありました。

3. 主な購入商品(複数回答)



・どちらの朝市も購入商品は同じような割合でした。
 ・多少ではありますが、農産加工品を買う人もいました。

4. 平均使用金額



・平均的な使用金額は、両方とも500円から2000円ぐらいでした。
 ・羽黒は500円~1000円、愛知北は1000円~2000円が多くなっていました。



お忙しいなか、調査に
 協力いただきました関係者の皆様、
 ありがとうございました。

地域の食材をみんなで食べる交流会(2013年10月20日)

—栗栖継鹿尾地区のまちづくりを考える—

犬山在住の方

今は犬山に住んでいますが、もともと栗栖地区の住人で、栗栖地区でイベントがあり、それに昔の知人が参加すると聞いて、久しぶりに会おうと思っただけで参加しました。地元で使った食材を使った料理がたくさん出てきて、たいへんおいしかったです。



栗栖地区の農家の方

栗栖地区の住民なので、地元でイベントがあるなら参加しようと思い参加することにしました。こうした交流会を開催することで、いろんなところから人が集まってきて、いろんな人と交流できてよかったです。



交流会に参加した学生

食に強い関心があり、テーマの「地域の食材を知る」に魅力を感じて参加することにしました。その場で採ったパッションフルーツを使って、ピザを焼きました。トマトペーストとパッションフルーツのソースがあって、いろんな味を堪能しました。とてもおいしかったです。

学生カフェ作成資料

水・金 11:30~数量限定販売
One Can ¥500 (+ ¥100 フリソング付)



旬の野菜をたっぷり使用し、1食あたり500kcalを目指したヘルシーランチを日替わりでご利用。地元で採れた食材や無添加食品を使用するよう心掛けています。

Drink



お好きなドリンクとスイーツのセットでお会計から30円引き お得なセットです



『DUNカンチ』
¥380
特製トマトソースであっさり仕上げました*。

Sweets 日替わり販売



*ハイブリッドチーズケーキ
きび砂糖を使用した優しい味わい+。
×ノンダ人気スイーツ

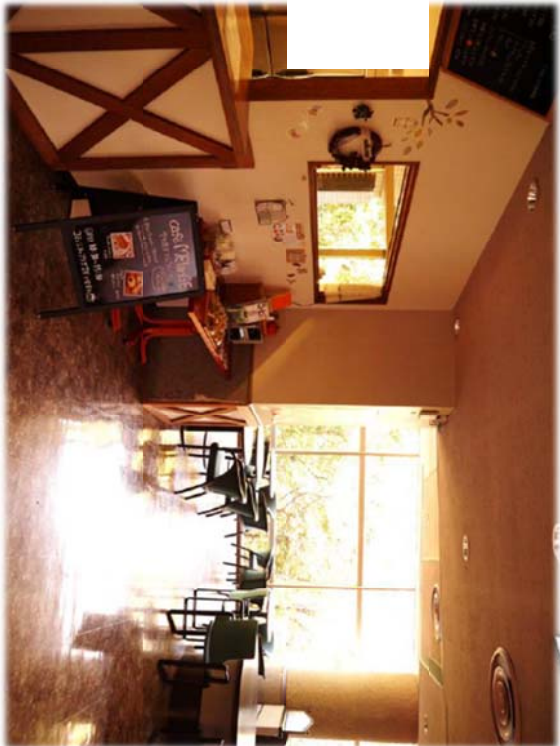
Drink
Takeout
OK!

有機栽培大豆を使用した珈琲(¥180)は注文を受けてからトロッツ淹れたてをどうぞ



☎434-8504

Cafe Melange
OPEN 火-金 10:30-15:00



一般のお客様も気軽にどうぞ。大きい窓から見える景色は季節を身近に感じられます



「人を繋ぎ 笑顔の輪を広
ぐ」ホッと息づける居心地
空間」をコンセプトとし、11
十月十九日「名古屋経済大学四
が運営するカフェをオープンしま
するの。ス
こである。朝
曲を聴きながら
ごんがでい
なごます。こ
ココロを
じとだけでは
こーを築かせ
あのほろろで
元の食材を強
用としていま



メレンゲのお菓子は
全て手作りです。
一つ一つ心を込めて
作っています*・。



MElanGE no okashi

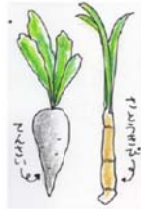
体に優しい「甜菜糖」「きび砂糖」「はちみつ」を使用しているのので、自然な甘みをお楽しみ頂けます。カロリーや糖分が気になる方へもオススメです*。



砂糖のはなし

砂糖は、「サトウキビ」を原料とするものと「砂糖大根（甜菜）」を原料とするものの2種類に大きく分ける事ができます。

熱帯の植物であるサトウキビは**体を冷やす**作用があるのに対し、寒冷地でとれる砂糖大根は**体を温める**作用があります。



シュガー・ストレスって!?

朝食や空腹時に糖分をたくさんとると、しばらくしてまた甘い物が食べたくなり、気分が落ち着かない。といった状態になります。これを「シュガー・ストレス」と言います。



砂糖は炭水化物なので、ごはんやパンと同じで
1g = 4kcal

砂糖の摂取目安は
1日 15g程度です。
※健康的なイメージのある
スポーツドリンクでも
30g含有しているものも…



精製度によって身体への作用は違う

【精製されたもの】…上白糖、グラニュー糖 etc
消化吸収が早い分、消耗も早く、血糖値の上昇が緩急。
栄養素を可能な限り取り除いている為、カロリーだけの食品。

【精製されていないもの】…黒砂糖、きび砂糖、甜菜糖 etc
ゆっくりと吸収される為、血糖値の上昇が緩慢。
ミネラルやビタミンを多く含む。

ブドウ糖は体の中では、肝臓や筋肉にグリコーゲンという形で貯蔵され、エネルギー源となります。しかし、たくさん体を動かしたり頭を使った際には早くグリコーゲンが消費してしまいます。これが疲労した状態です。身体がエネルギー補給をしようとして甘い物が欲しくなるという仕組みです。

疲れた時に
甘い物が欲しくなるのはなぜ? *

砂糖はブドウ糖と果糖が一つずつ結合したもので、体内では簡単にブドウ糖になり、すぐにエネルギーとして補給するのに適しています。

普段は普通の食事からゆっくりとエネルギー補給をして、疲労した時には甘い物から一気にエネルギーを補給する使い分けが大切です。

…と言っても、甘い物の取りすぎには注意が必要!
なるべく体に優しい精製されていない砂糖を選ぶ事をお勧めします。

エネルギーを消費しすぎて、体内で不足したブドウ糖を補給しようとしているからです。



砂糖の種類



上白糖

日本で使用されている砂糖の約半分を占める。
結晶が細かく、しっとりとしたソフトな風味。



黒糖

サトウキビの絞り汁をそのまま煮詰めたもの。濃厚な甘さと強い風味。沖縄県や鹿児島県南西諸島で作られている。
K・Ca・Mg・Feなどのミネラル分が含まれている。



きび砂糖

サトウキビを原料とし、精製途中の砂糖液を煮詰めたもの。
黒砂糖と上白糖の良いところを掛け合わせ、ミネラル分を残した砂糖。



てんさい 甜菜糖

寒さに強い砂糖大根を原料に作られる為、日本では北海道のみで栽培されている。オリゴ糖を含み、まろやかな風味とコクがある。

上白糖ではなく「甜菜糖」を使う理由

1. **オリゴ糖が含まれている**
おなかの善玉菌であるビフィズス菌の栄養となるオリゴ糖を手軽に増やすことができます
2. **ミネラルが豊富**
ナトリウム・カリウムなどのミネラルが豊富な為、不足しがちなミネラル分を補えます
3. **体を温める作用がある**
寒冷地で採れる甜菜には体を温める効果があり、冷え症にも効果が期待できます

岸野ゼミ作成資料：地域住民向けの朝市チラシ

ふれあい楽市開催中!!

毎月第1、第3土曜日 朝8時30分から11時まで

新鮮で旬な野菜が盛り沢山!!



～12月21日情報～

なんと!

カフェ最終出店につき
商品購入先着**12名様**に
手作りお菓子プレゼント!

なんと!

このチラシ持参で 1回のみ
1ポイントプレゼント
(30ポイントで200円引き)

～商品例～

- ・産直野菜・果物
- ・花木・加工品
- ・パン(来果)
- ・豆腐(田中豆腐店)
- ・リサイクル品
- ・刃物研ぎのサービス



【アクセス方法】

- ・楽田駅より徒歩5分
 - ・駐車・駐輪場完備
- 犬山市字外屋敷59-1
TEL: 080-1552-1234

主催：楽田ふれあい朝市実行委員会
共催：楽田地区コミュニティ推進協議会
協力：名古屋経済大学朝市推進班

ふれあい楽市開催中!!

毎月第1、第3土曜日 朝8時30分から11時まで

新鮮で旬な野菜が盛り沢山!!



なんと!!

~1月18日限定情報~

- ・産直野菜・果物
- ・花木・饅頭・餅菓子
- ・パン・豆腐
- ・ワン丸リサイクル
(第3土曜日のみ)
- ・刃物研ぎ 1本100円~

- ・振る舞いぜんざい
先着100名様まで!!
- ・歌声サロンが始まります♪♪
(10:00~12:00)
飲み物+ケーキ 500円
- ・このチラシ持参で一回のみ
1ポイントプレゼント
(30ポイントで200円金券に!)



【アクセス方法】

- ・楽田駅より徒歩5分
- ・駐車・駐輪場完備
犬山市字外屋敷59-1
TEL:080-1552-1234

主催:楽田ふれあい朝市実行委員会
共催:楽田地区コミュニティ推進協議会
協力:名古屋経済大学朝市推進班

参考資料 3 朝市調査時のアンケート

JA 羽黒、愛知北調査時のアンケート用紙

朝市のアンケート調査（羽黒、愛知北用）

1. あなたの性別を教えてください。

①男性 ②女性

2. あなたの年齢を教えてください。

①20代未満 ②20代 ③30代 ④40代 ⑤50代
⑥60代 ⑦70代以上

3. あなたが、この朝市会場に来るまでの交通手段を教えてください。

①車 ②徒歩 ③バイク ④自転車 ⑤電車 ⑥バス
⑦その他（ ）

4. 所要時間はどれくらいですか？

約（ ）分

5. この朝市会場での滞在時間はどれくらいですか？

（ ）分

6. この朝市を知ったきっかけを教えてください。

①情報誌・本 ②インターネット ③チラシ ④公報
⑤テレビ ⑥人づて ⑦地域情報誌 ⑧その他（ ）

7. これまで朝市に来た回数を教えてください。

①はじめて ②2～3回 ③5～10回程度 ④10回以上

8. この朝市に来た理由を3つ挙げてください。

①新鮮な食材を求めて ②安い食材を求めて ③大量の食材を求めて
④安全安心な食材を求めて ⑤美味しい食材を求めて ⑥楽しそうだから
⑦散歩ついでに ⑧観光ついでに ⑨朝食を済ませるために
⑩いつも来ているので ⑪特産物を求めて
⑬その他（ ）

9. 主に購入する商品を教えてください。

①野菜 ②米 ③果物 ④花 ⑤農産加工品（ ）
⑥畜産加工品（ ） ⑦水産加工品（ ） ⑧その他（ ）

10. この朝市で使うおおよその平均金額はどれくらいですか？

①0円～500円 ②500円～1000円 ③1000円～2000円 ④2000円～5000円
⑤5000円以上

11. ここ以外に行く朝市があれば教えてください。

{

ご協力ありがとうございました。}

楽田ふれあい楽市調査時のアンケート用紙(研究室)

朝市利用者アンケート (H25年12月21日実施)

1. あなたの性別を教えてください。 ①男性 ②女性
2. あなたの年齢を教えてください。 () 歳代
3. ご自宅から朝市会場までの交通手段と移動時間を教えてください。
交通手段：①車 ②バイク ③電車 ④徒歩 ⑤自転車
 ⑥その他 ()
移動時間：約 () 分
4. これまでにこの朝市に来た回数を教えてください。
①はじめて ②2~3回 ③5~10回 ④10回以上
5. ここでの滞在時間を教えてください。 約 () 分
6. 楽田ふれあい朝市には満足していますか？
①不満 ②やや不満 ③普通 ④やや満足 ⑤満足
7. 主に購入する商品を教えてください。
①野菜 ②米 ③果物 ④花 ⑤農産加工品 ⑥その他 ()
8. この朝市でおよその平均金額を教えてください。
①~300円 ②300~600円 ③600~1,000円 ④1,000~2,000円 ⑤2,000円以上
9. 今回の朝市にはチラシを見てきましたか？
①はい ②いいえ
10. チラシは見やすかったですか？
①とても見やすい ②見やすい ③普通 ④見にくい ⑤とても見にくい
11. チラシをご覧にならなかった理由を教えてください。
①届いていない ②既に知っているから ③その他 ()
12. 例えばどのようなところが見やすかったですか？
()
13. この朝市以外に行く朝市があれば教えてください。
()

ご協力ありがとうございました。